

# GlyfPick USER GUIDE

フォント軽量化ツール「グリフピック」 ユーザーガイド

<Mac OS 10.6~/Windows 7~>  

## CHAPTER

- 02 GlyfPickについて
- 02 オプション機能について
- 02 プログラム動作環境
- 02 使用手順
- 03 補足説明



## GlyphPickについて

グリフピックは、フォントワークスフォント (OpenTypeFont / TrueTypeFont) のフォントファイルをベースに、使用する文字 (グリフ) のみを抽出したフォントファイルを生成するためのユーティリティです。

必要な字形 (グリフ) のみを収録したフォントファイルにすることで、これまでのフォント容量から大幅に軽量化できます。アプリやゲームなどのフォントファイルの埋込において効果を発揮します。

サブセットフォントを作成する“もと”となる【基 (もと) フォント】から、指定された文字だけを選び出し、それらの文字で構成される“サブセットフォント”である【副 (ふく) フォント】を作成します。

例えば、15,444文字が収録されている「FOT-筑紫明朝 Pro」から、グリフピックを使って、「こんばんは」と5文字で書かれた【テキストファイル】を指定すると、重複する文字は自動的に省かれ「こ」「ん」「は」「は」の4文字が選び出されて【副フォント】が作成されます。

このとき、フォントの容量は7.5MBから5KBに軽量化されます。

### 用語説明と仕様について

#### 【基フォント】

用語説明：サブセットフォントを作成する“もと”となるフォント  
対象フォーマット：フォントワークスOpenTypeフォント / フォントワークスTrueTypeフォント

#### 【副フォント】

用語説明：指定した文字列のみで構成されたサブセットフォント  
フォントのnameは、作成者 (LETSご契約者) を示すプレフィックスが追加されます。

#### 【テキストファイル】

用語説明：指定する文字列が表記されたユニコードテキストファイル  
形式：UTF-8  
読込可能文字数：最大3,000文字

## オプション機能について

### 縦書き用グリフをピックアップする

基本の設定では、横書き用の文字だけがピックアップの対象です。このオプションを選択することで、縦書き用の文字も選び出されるため、横書きと縦書きで異なるグリフが必要とされる、拗音や句読点などをピックアップすることができます。

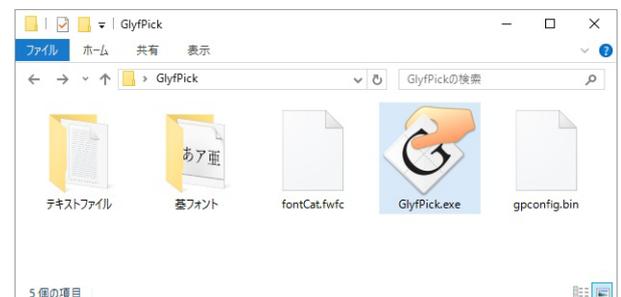
※あらかじめフォントに設定されている縦書き用テーブルの情報をもとに書き出します。

## プログラム動作環境

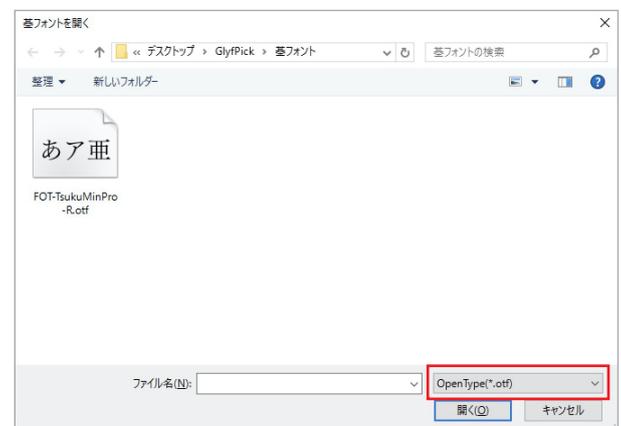
- ・ Mac OS 10.6～
- ・ Windows 7～

## 使用手順

- 1 【基フォント】と【テキストファイル】を用意して「GlyphPick」を起動します。



- 2 【基フォント】を選択します。

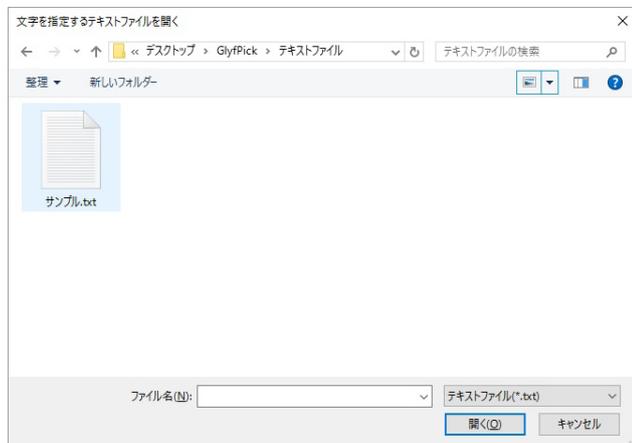


※Windowsの場合

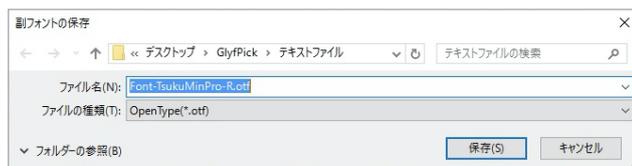
読み込むフォントフォーマットに合わせて、右下のプルダウンメニューより形式を選択してください。

## 使い方

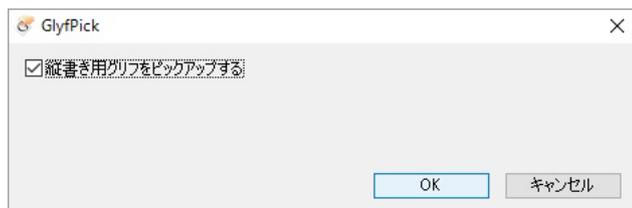
3【テキストファイル】を選択します。



4【副フォント】として保存する名前を入力します。



5 必要に応じて、オプションにチェックを入れ[OK]ボタンをクリックします。



6【副フォント】が作成されます。



## 補足説明

・「glyphPickLog.txt」について  
副フォント作成の際、デスクトップに作成されるログファイルです。